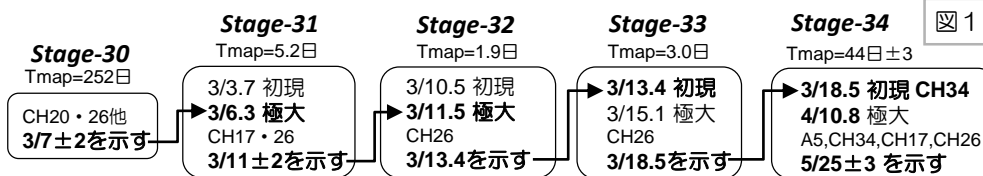


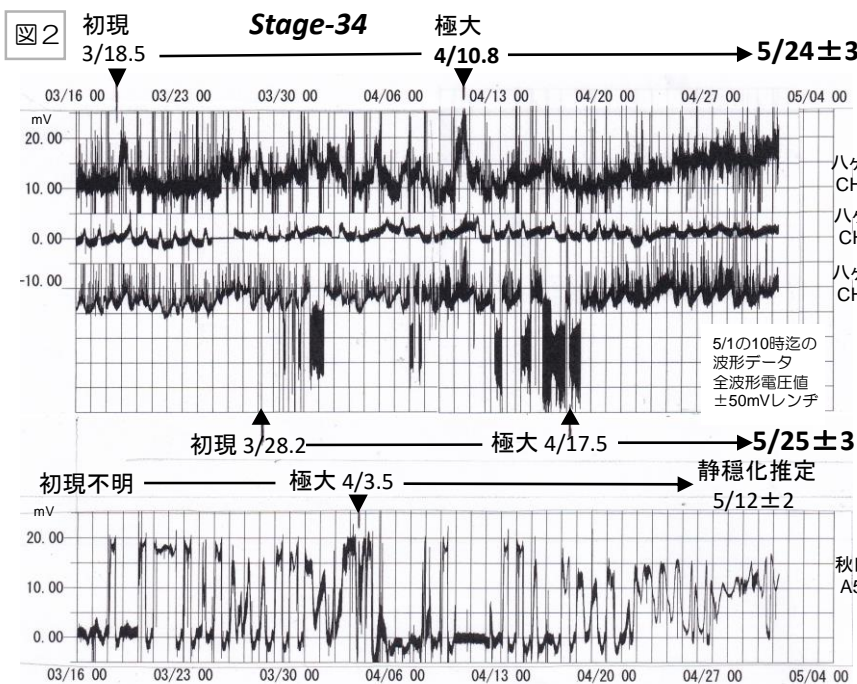
※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±0.3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

No1778 長期継続前兆変動 続報 A5 変動継続から 5/5±3 発生の可能性否定 Stage-34 の変動を再検討 → 5/25±3 発生の可能性が示唆される



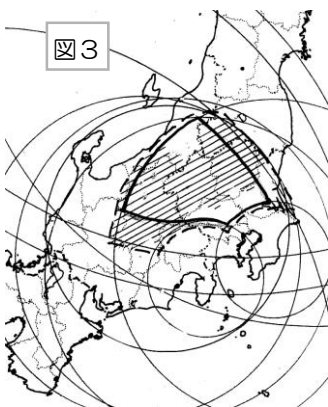
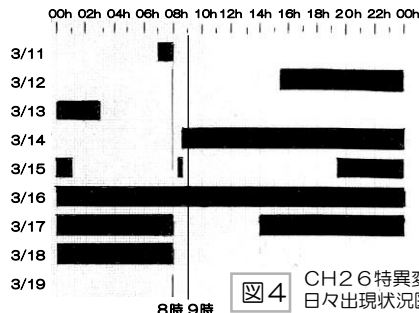
※No1778は地震発生が推定された時期（通常の場合は地震発生）に次の変動の極大や初現が出し次Stageに移行する現象が17年8ヶ月の間に30回続いた。数百日単位のStageが本年3月からは数日単位で同様な変化でしたが、Stage-34は44日±3となる可能性を示す模様。

参考：E-mail/FAX配信の観測情報、4/10 14時配信のNo3654で4/8極大の地震前兆変動から4/20±4、三陸沖で海深1700m付近ではM7.4±0.5地震発生を予報し、実際は4/20三陸沖でM7.7地震発生。ほぼパーフェクトな予報成功となりました。



◆ Stage-34からは5/5±3 発生の可能性が考えられました。しかし、5/1 現在、秋田観測点のA5の特異変動が継続中で、5月初旬発生の可能性は否定されます。◆あらためて、Stage-34の変動変化関係を検討し直しました。その結果、Stage-33が示した3/18.5は、CH34の変動初現3/18.5であること、CH34・CH26共に図2のとおり、5/25±3を示している可能性が考えやすい認識となりました。

◆このことから、秋田観測点のA5の初現は不明となります。CH34・CH26共に明確な変動は消えており、両観測装置からは静穏化確認は困難であると認識されます。その代わりに、A5は初現は不明ですが明確な変動が継続していますので、静穏化が確認できる可能性が考えられます。仮に5/25±3発生の場合には、A5の特異変動が5/12±2に静穏化する可能性が計算できますので、これを観測確認することが重要となります。下図4はCH26の特異変動出現状況。8時～8時30分に変動変化が見られることからBT-2同様変化で発生時刻を示している可能性有。午前の場合は午前8時30分±2時間に修正します。



- 推定領域：図3の点線領域内＝大枠推定領域
図3の太線領域内＝可能性が考えやすい
図3の斜線領域＝火山近傍が考えやすい
- 推定規模：M8.0±0.3
M7.7～8.0の可能性考えやすい
または複合地震

複合の場合はM7以上地震の断層長Lkmが
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.)式で110～150km
程度となる様な複合地震活動の可能性
(例：M7.1±0.3+M7.3±0.3等)

- 推定時期：2026年 5/25±3
※今後の観測必要。修正の可能性有
- 推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震
- 推定発生時刻：8時30分±2 or 18時±3
(複合地震の場合は当てはまらない場合有)
- ※今後、噴火型変動が複数日観測された場合は、対応地震発生に伴い、震央に近い火山で噴火の可能性あり。